

証券市場新聞

1 第203号

日経平均株価

2万2850円77銭

▼76円27銭(前日比)

TOPIX

1666.50

▼0.51(前日比)

2019
11/4
月曜日

発行元 株式会社 証券市場新聞社

〒542-0081 大阪市中央区南船場3-7-27 NLC心斎橋ビル6C

TEL 06-6105-1904 FAX 06-7635-7861

marketpress.jp



いよいよクリスマス商戦

ゲーム機やPC、ゲーミングパーク

今年も11月に入って実質的にクリスマス商戦がスタートした。全国的な年間行事としてすっかり定着した秋のハロウィーンを引き継ぐ形でクリスマス商戦に突入、1年で最も盛り上がる商戦として米国はもとより、国内でも年末年始商戦へ向けて重要なシーズンになる。特に今年9月からの8%から10%への消費増税が高額商品へもたらす影響も気になるところで、人気商品を扱う企業や小売りセクターなど年末消費に関連する銘柄の動向が注目される。

セール、イベント盛上る

イデー
は日本
では定

米国では、「サンク」である11月第4木
スギビング(感謝祭)一曜日の翌日である金
曜日がブラッ
クフライデー
と言われ、こ
こから名実と
もにクリスマ
ス商戦に突入
ス商戦にこの
伝統的にこの
時期から、ス
ーパーや百貨
店、ショッピ
ングモールな
どで大々的に
セールを行う。
クリスマス商
戦は外せない。今
年は任天堂(7月
4)が9月20日に
発売した「Nint
endo Switch」
が販売台数を伸ばす



クリスマス商戦が早くもスタートする

着していないが、この時期にゲーミングパークがクリスマスイベントを始めることに軌を一にして商戦が盛り上がりを見せ始める。クリスマスでの人気商品は外せない。今年9月20日に発売した「Nintendo Switch」が販売台数を伸ばす

か注目される。

PC(パソコン)

でゲームをするユーザーが増えるなかで、20年1月14日にはPCの基本ソフトウェア(OS)であるWindows 7のサポートが終了する。

これに絡んでPCの買い替え需要が発生することも期待され、MCJ(6670)などのPCメーカーやヤマダ電機(9831)やエディオン(2730)の家電量販店も注目される。

クリスマスイベントを開催しているオリエンタルランド(4661)運営の東京ディズニーランドなども海外旅行者を含めた来場者増が期待される。

日経平均日足チャート



スルガ銀行の日足チャート



スルガ銀が急伸

ノジマが株取得し筆頭株主に

メント、スルガ総合
保険、エス・ジー・
アセットを含む創業
家とファミリー企業
との間で、同行株式
の譲渡契約を結んだ
と発表したが、29日
い手掛かり。

28日、スルガ銀（8358）が急伸。ノジマ（7419）が大株主のエス・ジー・インベスト

今週の動意銘柄

週明け28日、スルガ銀（8358）が急伸。ノジマ（7419）が大株主のエス・ジー・インベスト

信越化買い手控え

28日、信越化学工業（4063）は反落。20年3月期第2四半期累計の連結決算は、営業利益2105億3200万円（前年同期比0・6%増）と

微増益で着地、直近3カ月の7〜9月期は9・5%の減益だった。半導体シリコンや機能性化学薬品は堅調に推移、主力の塩ビ・化成品は苦戦したものの、市況底打ちに伴う下期以降の回復が観測されるなどおおむねポジティブな評価だった。ただ、株価は年初来高値圏にあり、買いは手控えられた。

ファナック5日ぶり反落

29日、ファナック（6954）が5日ぶりに反落。20年3月期の連結業績予想を下方修正した。営業利益を713億円から691億円（前期比57・7%減）へ。7月に続く2回目の減額で、期初計画は757億円だった。中国向けFAやロボマシンの低迷で、受注は2ケタ超の減少。ただ、下期の

為替前提を1ドル100円、1ユーロ115円と円高に設定するなど、保守的に見積もり、併せて自社株取得期限の延長を発表したことから、売り一巡後は下げ渋った。

公開価格の2・6倍

セルソースの初値

29日、前日に東証マザーズ市場に新規上場したセルソース（7073）

増配で修正上方長大

28日、長大（9624）がストップ高。20年3月期の業績予想について、通期連結営業利益で22億円から29億円（前期比69・7%増）へ上方修正、期末一括配当を40円から53円（前期36円）へ引き上げた。業務の効率化などが寄与している。

公開価格の2・2倍

ジェイックの初値

29日、ジェイック（7073）

小判大株のいい直正

1日の東京市場は反落。米中貿易協議についてのネガティブな報道を受け、前日の米国株が下落した流れを引き継ぎ、売り優勢の展開で、円高・ドル安も重しになりました。ただ、米中問題に振らされる状況に慣れてきたようので、寄り後早々たあとは下平均は76この日の高前日に急落イテク株も3連休控計も気になると、任天堂が大幅高に買われるなど好決算銘柄を中心に推奨銘柄で7）が新値を追T（3697）も高値をうかがう動きです。手間いらす（2477）が引け後に発表した1Q決算は5割営業増益で連休空けに期待です。 花咲翁



が東証マザーズ市場に新規上場、公開価格4750円の2・2倍となる1万3200円で初値をつけた。教育融合型人材紹介サービスなどの就職カレッジなど研修サービスを提供。

公開価格33%上回る

30日、恵和の初値（4251）が東証2部に新規上場、公開価格770円を33・2%上回る1026円で初値が生まれた。同社は光学シート、産業資材等の製造販売を行う。

ホンダ系3社がS高

日立オートも含めた合併報道

30日、シヨーワ(7274)、ケーヒン(7251)、日信工業(7230)のホンダ(7267)グループ自動車部品3社がストップ高。日立製作所(6501)子会社の日立オートモティブシステムズとホンダ系3社が合併を検討している、と報じられた。電気自動車や自動運

富士通上方修正

30日、富士通(6702)が大幅高で年初来高値更新。20年3月期の連結業績予想について、営業利益

200億円(前期比22.9%増)へ上方修正

アドバンテ大幅続落

30日、アドバンテ(6857)が大幅に3日続落。20年3月期の業績予想について、通期連結売上高で2300億円から2470億円(前期比12.6%減)、営業利益で300億円から450億円(同4%減)へ上方

31日、アドバンテ(6857)が大幅に3日続落。20年3月期の業績予想について、通期連結売上高で2300億円から2470億円(前期比12.6%減)、営業利益で300億円から450億円(同4%減)へ上方

浅い調整局面入りか

10月相場の日経平均株価は1172円高で終わり、月足は2カ月続伸となりました。一方、先週は一時2万3000円台を回復する場面ありましたが、目先の目標達成感もあり、4週続伸ではあります。週足は陰線形成。週末1日の日足は窓空けの下放れ陽線となり、5日線を割り込んでいます。週足、日足を見る限り、11月初旬は調整局面だと思われ

転ばぬ先のテクニカル

ただ、その調整も大きな下落には至らないものと思われ。なぜなら日銀のETF枠が残り2カ月で約2兆円残っており、1日700億円購入するとしても20日分となり、残りの営業日の半分が日銀に買い支えられる計算が成り立つからです。20日線の走りを下値ターゲットとして押し目買いでしょう。

日々勇太郎



修正した。5G関連半導体など最先端プロセス品が拡大、アナリストコンセンサスも上回ったが、29日に高値を付けていることから利益確定売りに押された。

ソニー上方修正好感

31日、ソニー(6758)が急伸、18年10月以来の高

任天堂53%営業増益

週末1日、任天堂(7974)が大幅に5日続伸。20年3月期第2四半期累計の連結決算は、売上高4439億6700万円(前年同期比14.2%増)、営業利益942億2200万円(同53.4%増)と増収大幅増益で着地したことが好感された。ニンテ

修正した。5G関連半導体など最先端プロセス品が拡大、アナリストコンセンサスも上回ったが、29日に高値を付けていることから利益確定売りに押された。

MinorityはTOB

31日、Minority(3822)が上場来高値更新。SCSK(9719)が同社に対して公開買い付けを実施すると発表したことを受け、TOB価格2700円にサヤ寄せされた。SCSKは同社株式の10.45%を保有するが、TOBにより完全子会社化を目指す。

公開価格10円下回る

0%減)だったが、株価に織り込み済みで、1対2株式分割と配当が実質倍になることが好感された。ダブルエーの初値(7683)が東証マザーズ市場に新規上場、公開価格4690円を10円下回る4680円で初値が生まれた。婦人靴の企画、販売を行う。

今週の動意銘柄

キーエンス減益も分割

1日、キーエンス(6861)が急伸。20年3月期第2四半期累計の連結決算は、営業利益1388億2400万円(前年同期比14.2%増)と増収大幅増益で着地したことが好感された。ニンテ

～決算情報～

日本トリム

BtoB法人向け伸びる 第2四半期17.4%営業増益

日本トリム（6788）の20年3月期の第2四半期（4～9月）は連結売上高86億9300万円（前年同期比10.0%増）、営業利益16億1500万円（同17.4%増）、純利益10億200万円（同21.2%増）と大幅な増益となった。

整水器販売では、前期より取り組んでいる健康経営を切り口としたBtoBの法人向け営業の成果が出てきており、インドネシアのボトリングビジネスも売上高が前年同期比42.6%増（現地通貨ベース）と順調に拡大。ステムセル研究所も月間契約検体数が引き続き好調に推移している。

通期は売上高163億6000万円（前期比7.8%増）、営業利益26億3000万円（同16.9%増）、純利益14億8000万円（同18.4%増）と従来予想を据え置いた。

カプコン

33.2%営業増益で着地 2QDL販売の伸びが利益押し上げ

カプコン（9697）の20年3月期第2四半期累計（4～9月）の連結決算は売上高372億7200万円（前年同期比14.0%減）、営業利益139億9200万円（同33.2%増）、と大幅増益となった。

利幅の大きいダウンロード（DL）販売の伸長により利益を大きく押し上げており、9月6日に発売された「モンスターハンターワールド：アイスボーン」も9月末までで280万本を販売し利益を押し上げている。

通期は売上高850億円（前期比15.0%減）、営業利益200億円（同10.2%増）と従来見通しを据え置いた。大阪取引所での決算発表の席上、野村謙吉取締役専務執行役員最高財務責任者（CFO）は「DLによる販売本数増でゲーム人口が拡大することが成長に支えになる」と語った。

ハリマ化成グループ

2Q減収益も粗利率改善 中国景気減速織り込み通期減額

ハリマ化成グループ（4410）の20年3月期第2四半期累計の連結決算は、売上高369億8100万円（前年同期比6.2%減）、営業利益22億3800万円（同4.9%減）、最終利益15億4900万円（同47.4%減）で着地した。

欧州、北米での販売数量減で減収減益となったが、中国向け製紙用薬品は堅調に推移、ローターが営業増益を確保するなど、付加価値シフトと製造原価の低減により、粗利率は改善した。最終大幅減益は前年同期に子会社の繰延税金資産を計上していたため。

通期は売上高750億円（前期比4.6%減）、営業利益40億円（同14.3%減）、最終利益28億円（同32.2%減）と中国景気後退の影響を織り込み期初予想を下方修正。ただ、年間配当38円は据え置いた。

日本精線

第2四半期は減収減益 主力のステンレス鋼線など苦戦

日本精線（5659）の20年3月期第2四半期累計（4月～9月）の連結決算は、売上高で172億300万円（前年同期比13.7%減）、営業利益は7億6000万円（同65.2%減）と減収減益となった。

主力のステンレス鋼線部門は、スマホなどIT関連をはじめとする高機能・独自製品が需要減と在庫調整などにより低迷。またステンレス鋼線市場全体の需要動向も減少傾向が続いており、減産を余儀なくされた。加えて金属繊維部門では、ナスロンフィルターはポリエステルフィルム用途がわずかに増収となったものの、化合繊維や高機能樹脂用途などが低調となっている。

通期は売上高350億円（前期比9.7%減）、営業利益18億円（同49.4%減）と従来予想を据え置いている。

日経平均Xマスまで上昇

エリオット上下4カ月波動形成

国際テクニカルアナリスト 武蔵 宗久 氏

日経平均はリーマンショック後の2009年3月10日の安値7054円から上昇相場が始まり、昨年10月2日の2万4270円まで約10年で3・4倍に上昇した。そして昨年12月25日の1万9155円までの急落で長期波動は終了した。

エリオット波動理論における長期の上昇波は三段で上昇し、調整波は二段で下降する。その波は小さい波動が積み重なり、大きな波動へ導かれると定義される。日経平均は底値から現在まで明確にエリオット波動の波を形成している。昨年12月25日をスタートして、今年2月4日まで小波動の一段上げ、2月8日調整波の後、3月4日まで二段上げ、3月25日調整波の後、4月25日まで三段上げ、その後6月4日まで二段の調整波の後、7月25日まで三段の上昇波、そして8月26日まで二段の調整波を形成している。その後9月24日まで第一段の上昇波の後、10月1日まで二段の調整波を形成し、現在は二段目の上昇波になっている。この波動で注目すべきは、日経平均の底からの上下波動の期間が一致している点である。まず昨年12月25日から4月25日まで四カ月上昇波を形成した。そして8月26日まで四カ月の調整波を形成している。この波動期間が今後も継続した場合、現在の二段目の上昇波の後には近い将来必ず下降波を形成することになる。その後二段目の上昇波の高値は四カ月後のクリスマスである12月25日前後になる可能性が高い。

相場展望

この波動期間が今後も継続した場合、現在の二段目の上昇波の後には近い将来必ず下降波を形成することになる。その後二段目の上昇波の高値は四カ月後のクリスマスである12月25日前後になる可能性が高い。

タキロンシーアイ

2Q営業減益も下期挽回へ 住宅建材は復旧需要で拡大つづく

タキロンシーアイ（4215）の20年3月期の第2四半期累計（4～9月）決算は連結売上高で707億3800万円（前年同期比3.5%減）、営業利益で36億3800万円（同18.6%減）と減収減益となった。

住設建材では主力のポリカーボネート製採光建材が昨年の台風被害に対する復旧需要に絡んで拡大が継続しているが、高機能材では主力の工業用プレートが引き続き半導体・FPD設備投資低迷の影響を受けている。

通期は売上高1510億円（前期比0.2%増）、営業利益93億円（同2.4%増）と従来予想を据え置いた。齋藤一也代表取締役社長COOは「第2四半期単体では、当初計画予想を達成している。5Gに加えてサムスンも設備投資再開が伝えられており、下期は挽回したい」と意欲を見せた。

三相電機

第2四半期71%営業減益 通期変更なく期末21円配当据え置く

三相電機（6518）の20年3月期第2四半期累計の連結決算は、売上高70億3100万円（前年同期比13.4%減）、営業利益1億6400万円（同70.8%減）、最終利益1億3000万円（同67.6%減）で着地した。

半導体製造装置用ポンプの一部に回復の傾向がみられるものの、省力化・合理化ニーズを背景に底堅く推移してきた産業用モータが減速、中国向け受注はモータ、ポンプとも堅調ながら加価格競争が厳しく、減収大幅減益を余儀なくされた。

通期は売上高143億円（前期比9.5%減）、営業利益4億4000万円（同48.8%減）、最終利益3億3000万円（同49.8%減）と従来予想に変更はなく、期末一括配当22円を据え置いた。

チャートから読む 騰落銘柄

串カツ田中HD(3547)



10月11日に50日線水準である2090円まで調整後は出直りの動きを窺う展開。9月までの既存店苦戦は織り込み済みで、郊外型ファミレス業態の展開から20年11月期の回復期待から上値追い期待。

ストライク(6196)



マド空け急伸のあと一呼吸入れて一段高。M&A仲介事業の利益成長性は大きく、信用倍率0.51倍の好取組が株価を押し上げる。5日線を下値支持に短期上昇基調が続き、株式分割を考慮した最高値を意識。

日本通信(9424)



9月24日に234円まで上昇した後は下げ続く。ソフトバンク回線軸のMVNOは未達懸念強く、11月7日の第2四半期決算次第では8月29日の安値168円割れも。2414万株超の買い残も重石。

幸楽苑HD(7554)



既存店売上げが伸び悩み、業績計画未達成を警戒。日足、週足陰転のあと5日線上値を抑えられ、約3カ月にわたりほぼ一本調子の下げが続く。台風19号による工場、店舗への被害も痛手で一段安も。

※チャートは日足

潮流

今後景気は回復に向う

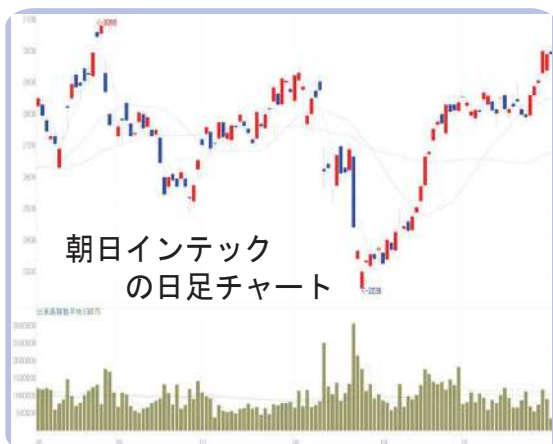
ヘッジファンドは買いに大転換！



最高値を更新した。28日にはハイテク比率が高いナスダック総合株価指数も一時、過去最高値を上回った。欧州市場では28日にドイツ株式指数(DAX)が1年4カ月ぶりに年初来高値を更新した。フランスの株価指数CAC40とイタリアのFTSE・MIBも年初来高値更新となった。欧米株式市場の上昇基調が強まる中、日本も29日に日経平均が一時、2万3008円と11カ月ぶりに年初来高値を更新した。

例年、外国人投資家は日本株(現物)を10月から12月に買い越す傾向がある。今年も同様に10月は大幅買い越しとなっている。10月第3週時点では7243億円の月間買い越しだ。今年になって月間で買い越しとなったのは4月(1兆6054億円買い越し)だけである。10月は半年ぶりに今年2回目の月間買い越しだ。

現物と先物の合計で見ると、外国人投資家の年初からの売り越しは8月第2週時点で3兆円を上回っていた。しかし、10月第3週時点では年初からの売り越しは5071億円まで減少した。10月第3週の外国人投資家の買い越し



米国株式市場で10月29日、S&P500種株価指数は3カ月ぶりに過去

最高値を更新した。28日にはハイテク比率が高いナスダック総合株価指数も一時、過去最高値を上回った。欧州市場では28日にドイツ株式指数(DAX)が1年4カ月ぶりに年初来高値を更新した。フランスの株価指数CAC40とイタリアのFTSE・MIBも年初来高値更新となった。欧米株式市場の上昇基調が強まる中、日本も29日に日経平均が一時、2万3008円と11カ月ぶりに年初来高値を更新した。

例年、外国人投資家は日本株(現物)を10月から12月に買い越す傾向がある。今年も同様に10月は大幅買い越しとなっている。10月第3週時点では7243億円の月間買い越しだ。今年になって月間で買い越しとなったのは4月(1兆6054億円買い越し)だけである。10月は半年ぶりに今年2回目の月間買い越しだ。

現物と先物の合計で見ると、外国人投資家の年初からの売り越しは8月第2週時点で3兆円を上回っていた。しかし、10月第3週時点では年初からの売り越しは5071億円まで減少した。10月第3週の外国人投資家の買い越し

額(現物と225先物とTOPIX先物合計)は、週間で今年最大となる1兆218

0億円に膨らんだ。225先物とTOPIXとの合計買い越し額は6641億円だ。外国人投資家の日本株に対する投資姿勢の変化を示している。

日経平均の動きは外国人投資家の225先物とTOPIX先物の

ポジションに比例する。先物(225先物+TOPIX先物)を大幅な買い越しに転じた時には日経平均は大幅上昇し、大幅な売り越しに転じてきた時には日経平均は急落する。ここで言う外国人投資家とはヘッジファンドだ。つまり、日本の株式市場はヘッジファンドに支配されて動いている。ただ、今回のヘッジファンドの買い転換は日本だけを捉えているのではなく、米国や欧州に対しても変調をきたしている。

景気先行き期待の改善初期にグロース株をアウトパフォームする傾向が高いバリュー株が9月以降、特に堅調となっている。米国市場でS&P500バリューインデックスがグロースインデックスをアウトパフォームしていることでも分かる。つまり、今後景気は回復に向うということだ。

潮流銘柄は朝日インテック(7747)、オービックビジネスコンサルタント(4733)、カチタス(8919)。

ら優勝。直近では2017年1月に始まった夕刊フジ主催の「株・1グランプリ」において優勝。1カ月間における3銘柄の合計パフォーマンスでは15.5%と断トツの結果。週刊現代、週刊ポスト、夕刊フジ、ネットマネー、月刊カレントなど幅広く執筆活動を行う。現在、個人投資家に投資情報サービスを行う。http://marketbank.jp



岡山 憲史氏(株式会社マーケットバンク代表取締役)のプロフィール

1999年2月日本初の資産運用コンテスト「第一回S1グランプリ」にて約1万人の参加者の中から

10月第3週は今年最大額



敏腕先物ディーラー ハチロクの裏話

ハチロクのプロフィール
証券アナリストから証券会社

の法人部長を経て、225先物オプションディーラーに転身。アナリスト時代に培ったテクニカルやファンダメンタルズなどの分析力を駆使、リーマンショックなどの暴落時も乗り越えて西日本における225先物オプションディーラーとしてはトップクラスの運用実績を誇る。



ドル円の日足チャート

国内では第2四半期決算の後半戦に突入し、決算ラッシュが続くため、個別銘柄に注目は集まり易く、指数的には高値揉み合いが続くと思われる。チャートの5日線(2万2892円)を割れて引けているので、この線を再び抜けて引けてくるかがポイントであろう。ただ、1日には為替が一時、1ドル107円87銭にまで突っ込む場面があり、円高傾向に戻りつつあるため、大幅な上昇は望めないと思う。高値のメドは上値抵抗ライ

ンの2万3100円処と見る。一方、下値ラインは一目均衡表の転換線(2万2733円)、基準線(2万2142円)も横ばいになっているため揉み合い傾向だが、転換線を引け値で明確に抜けてくれば、調整局面に入るかもしれない。その場合、下値は窓埋めの2万2648円81銭、節目の2万2500円が意識される。RSIは86.9%と依然高く、揉み合い相場が想定される。今週のレンジは2万2500円から2万3100円を想定する。(ハチロク)

高値揉み合い 相場がつづく

円高傾向で大幅上昇望み薄?

先週の日経平均はじり高基調で、29日には2万3008円43銭まで上昇し、昨年10月以来の高値水準となった。しかし、米連邦公開市場委員会(FOMC)や日銀の金融政策決定会合の結果が予想の範

囲内の留まったことから、上値を追うことはなく、高値揉み合いの展開となった。11月相場入りとなった1日の金曜日には米中協議の後

退の報道もあり、下げ幅は一時200円を超えたが、後場からは戻す動きとなり、底堅さが目立った。今週は4日が体育の日で祝日となるため、4日間立ち合い。注目材料としては、5日の米貿易収支や10月ISM非製造業景況感指数が上げられよう。



日経225先物日足チャート

星野三太郎の 株街往来

～高機能化の弊害～

10月2

4日から開催されている東京モーターショー2019に合わせて自動車メーカーに合わせた様々な新型車が発表された。小型車ではヴィッツから車名を変更するトヨタのヤリスやホンダのフィットあたりがユーザーに心が高いようだが、電動パーキングブレーキの不具合からフィットについては発売を来年に延期してしまった。

今回の件に限らずどの自動車メーカーもあらゆる部分で電装化が進んでおり、発売後に何らなりのリコールは驚く出来事ではなくなってしまった。それ故に自動車販売に従事する知人によれば、技術の熟成が進んで不安なく乗れることを理由に、最近ではモデルチェンジ前の車種を好んで購入するユーザーも多いそうだ。筆者も数年前に現在の車に買い替えたが、ハンドル周辺だけでも現在まで一度も使ったことがないボタンは結構存在する。最新技術の搭載はワクワクするが、そのために販売価格が上昇したり、トラブルが発生するのも困りものだ。安全のための技術開発は継続すべきで、それに加えて多様なユーザーのニーズを満たすためのメーカー側の苦勞も多い。価格と新機能のバランスを両立するのは大変だが、シンプルイズベストを期待したい。



待したい。



伊勢志摩で遊ぶなら
近鉄しまかぜコイン

アプリ利用で
チャージ金額に10%の
プレミアムがついておトク!

利用期間：2019年11月11日(月)～2020年1月31日(金)

近鉄しまかぜコインとは
お手持ちのスマートフォンで使える
伊勢・志摩・近畿圏内のデジタル地域通貨です。

近鉄GHD

「近鉄しまかぜコイン」

MRIと11月11日から発行

近鉄グループホールディングス(9041)と三菱総合研究所(MRI)は、ブロックチェーン技術を活用したデジタル地域通貨として、11月11日から2020年1月31日までの期間、「近鉄しまかぜコイン」を発行する。

これは、過去二度にわたって近鉄とMRIが共同で実

施した「近鉄ハルカスコイン」社会実験の成果に基づき実用化し、新たに近鉄沿線の重要観光拠点である伊勢志摩地域の観光施設や飲食店などで決済に利用できるプレミアム付きのデジタル地域通貨を発行することで、更なる旅客誘致を図り、同地域の競争力を高めるもの。

「近鉄ハルカスコイン」同様、MRIがブロックチェーン技術を駆使したプラットフォームの全体開発と運用マネジメントを担当、両社が協力してサービス機能拡充を行う。

「近代建築そもそも講義」

大和ハウス工業

藤森照信氏と共同で執筆



大和ハウス工業(1925)総合技術研究所と藤森照信氏が共同で執筆した書籍「近代建築 そもそも講義」(出版：新潮社、税込価格880円)が全国主要書店で一斉に発売された。「近代建築 そもそも講義」は、週刊新潮で以前に連載した「建築 そもそも講義」(全153回)のうち、68回分を抜粋した書籍。明治時代以降に起きた「スリッパ問題」や「国産大理石競争」、突如乱立した「アヤシイ洋館」などを例に挙げて、日本の近代建築が洋風建築をどのように受け入れてきたのかを紹介している。藤森照信氏の略歴・建築史家・建築家で東大名誉教授。東京都江戸東京博物館館長。

企業レター

相場見通し

記者の視点

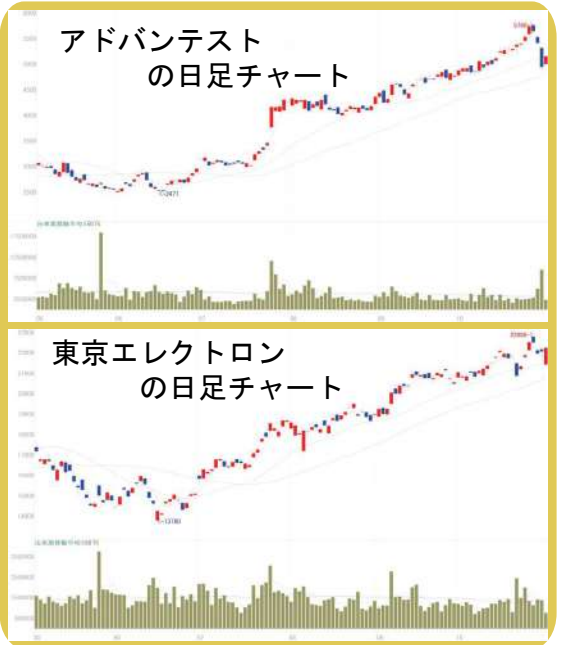
ピッチ速く調整は想定内 SQ前の仕掛け的動きに注意

議について、米ブルームバ
グ通信が「米国の包括
的かつ長期的な貿易合意に
達することが可能かどうか、
中国の当局者は疑念を抱
いている」と報じたことで、
10月31日にはダウで1
40ドル超の値下がりとな
っており、これを受けて1
1月1日の東京市場は寄り
付きで196円55銭安と

半導体関連売り一巡後に週
レクトロン(8035)や東京エ
スト(6857)やアドバンテ
に下落していたアドバンテ
個別では上方修正発表後
視したい。

中貿易協
ていた米
スになっ
論のべー
での楽観
なこれま
になった。
い展開に
上値が重
けた後は
高値を付
4308円
02万3
に220
月30日
は、1日
日経平均
上値を追
で順調に
これま
した。こ
始まった
幅安で
久方ぶ
り大

（6754）を含めて、下
末は出直る動き。アンリツ
期の慎重見通しが懸念要因
となつてはいるが、上期牽引
の5G投資の今後の動向を
判断するのは時期尚早。こ
れら銘
柄が高
度目指
す動き
となれ
ば、平
経平均
も2万
3000
0円突
破が現
実味を
増して
こよう。



当面のスケジュール

- 1日 米10月雇用統計(21:30)/米10月ISM製造業景況指数(23:00)
- 4日 米9月製造業受注(5日0:00)
- 5日 10月マネタリーベース(8:50)
米9月貿易収支(22:30)/米10月ISM非製造業景況指数(6日0:00)
- 6日 9月18・19日開催の日銀金融政策決定会合議事要旨
- 7日 10月都心オフィス空室率(11:00)
- 8日 9月毎月勤労統計調査(8:30)/9月景気動向指数(14:00)
中国10月貿易収支
米11月ミシガン大学消費者マインド指数(9日0:00)

編集後記
前週の東京市場では半導体関連の一方で、最も印象に残ったのが中村超硬の急騰劇だった。週末にかけ人気が離散したものの、4日連続ストップ高を交え、株価は一気に5倍強に。最高値から20分の1以下に売り叩かれ、売り物が枯れ切っていたタイミングでゼオライトナノ粒子製造技術確立という材料が飛び出したことがポジティブサプライズになった。
格言でいう人の行く裏に道あり：といったところだが、全般底上げが続く強調地合いのなか、マークすべきたったと反省している。

【ご注意】証券市場新聞は投資の参考になる情報提供を目的としており、投資の勧誘をするものではありません。記事には業績や株価、出来事について今後の見通しを記述したものが含まれていますが、それらはあくまで予想であり、内容の正確性、信頼性、予測的的確性を保障するものではありません。当紙が掲載している情報に基づく投資で被らねたいかなる損害について、当社と情報提供者は一切の責任を負いません。投資についての決定はすべてご自身の判断、責任でお願いいたします。